

平成22年度 第2回平田地域協議会 会議録 (概要)

1. 日 時／平成22年6月7日 (月) 午前9時30分～正午

2. 場 所／ひらたタウンセンター 集会室

3. 出席者／ (1) 1号委員 (団体推薦)

・ 奥山仁委員・阿曾智子委員・小林悟委員・和根崎勘一委員・
長谷部耕次委員・佐藤力委員・加藤勝子委員・菅原律子委員 (副会長)
・・・計 8名

(2) 2号委員 (識見を有する者)

阿部敬子委員・後藤保喜委員・富樫文雄委員 (会長) ・・・計 3名

(3) 3号委員 (公募)

佐藤達也委員・富樫美雪委員・藤原幸雄委員 ・・・計 3名

(4) 酒田市

総務部 白崎好行政策推進課長・政策推進課 山口仁政策推進主査・
土井義孝政策推進主査・

平田総合支所 齋藤啓一支所長・石川忠春地域振興課長・
中條幸弥市民福祉課長・佐藤政好建設産業課長・
土田瑞穂地域振興課長補佐・
地域振興課 小松原毅地域振興主査兼地域振興係長

・・・計 9名

出席者合計23名

4. 欠 席／堀弥志男委員 (1号委員／団体推薦)

5. 傍聴者／2名

6. 次 第／ (1) 開会

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

(4) 会議録署名委員の選任

(5) 報告

①主要地方道 酒田松山線（飛鳥バイパス）について

②平成22年度「移動市役所」の開催について

③地域情報通信基盤整備事業について

(6) 協議

①過疎地域自立促進市町村計画（過疎計画）について

②平田地域における過疎計画策定に向けた進め方について

③地域課題について

(7) その他

(8) 閉会

7. 会議録／(1) 開会

▶石川地域振興課長

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

▶富樫会長

おはようございます。

田植えが終わってから天気の良い日が続いているが、好天の下、昨日行われた砂越・砂越緑町コミュニティ振興会の大会には600人も参加があった。種目については、従来砂越緑町でやってきたもの、砂越でやってきたものをプログラムに入れて実施し、中学生からも用具係や案内係として協力してもらった。また普段は会わない人とも話をすることができる、良い機会となった。コミュニティ振興会も発足して2年目に入り、各コミュニティ振興会の運動会も、大変盛り上がったと聞いている。

本日は過疎計画の策定に向けてのご意見をうかがいたいと、ご案内申し上げたところである。皆様からは積極的なご提案、活発なご協議をいただき、新たな過疎計画を中身の濃いものにしていきたい。

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

▶ 齋藤支所長

おはようございます。

富樫会長の話にもあったように、昨日は三つのコミュニティ振興会で運動会や軽スポーツ大会が行われた。また田沢コミュニティ振興会においては、山元地区、田沢地区の敬老会が開催された。春から心配された天候も回復傾向にあり、最高の行事日和であったし、農業でも豊作を期待している。

現在市では、全市的なデマンドタクシーの運行について検討している。6月の市議会で承認いただければ、7月より新堀地区と広野地区で運行が開始される。平田地域にも関連することであり、今後地域協議会にご説明し、ご意見をうかがう場面も出てくる。

本日の地域協議会では政策推進課より、過疎計画を策定するにあたっての日程などについて説明申し上げ、委員の皆様からご意見をうかがいたい。昼までという短い時間での協議会となるが、よろしく願いたい。

(4) 会議録署名委員の選任

▶ 富樫会長

会議録署名委員として、長谷部耕次委員を選任いたします。

(5) 報告

① 主要地方道 酒田松山線（飛鳥バイパス）について

▶ 佐藤建設産業課長（資料に沿って説明）

▶ 佐藤力委員

先日開催された協力会でも意見として出たが、国道345号まで供用開始となる時点で、竣工式を行った方がいいのではないかと。

▶ 佐藤建設産業課長

現段階で判断することは難しい。推移を見ながら検討していきたい。

▶ 齋藤支所長

県では、国道345号より東を含め、計画どおりに開通させるべく最大限の努力をしているところであり、状況を見て判断したい。

▶ 藤原委員

飛鳥バイパスの工区の中に、南平田小学校と飛鳥中学校の通学路となっており、子どもたちが横断しなければならない箇所がある。児童・生徒の登下校時における安全確保に向け、押しボタン式信号機の設置な

ど、安全対策としての具体的な計画があれば示してもらいたい。

▶ 齋藤支所長

信号機については、道路整備ではなく公安委員会の予算で設置する。予算の規模もあり、飛鳥バイパスには1基が新設される計画であり、地元で必要であれば、既存の信号機の移設を検討することとしている。

交通安全協会平田支部とも協議のうえ、信号機について要望を出しているのは、新設として南平田小学校と郡鏡とを結ぶ田中線との交差点、既存の信号機の移設として国道345号との交差点、押ボタン式の新設として飛鳥中学校そばの渡辺道線との交差点の3箇所である。通学路については、県が学校側に工事計画を示し、安全な経路の設定について検討が進められている。引き続き、小・中学校や交通安全協会平田支部との連携を密にしていきたい。

②平成22年度「移動市役所」の開催について

▶ 石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶ 佐藤力委員

移動市役所について、セレモニーや形式的に終わることなく、どのくらいの効果が上がっているのか。

▶ 齋藤支所長

会の持ち方としては、初めに市長が市政全般についての説明を行い、その後関係部長が個別の要望や相談に応じている。いただいた要望等については、間違いなく担当課に届く。担当課では、当日相談者に回答した内容で支障がなければ、そのまま対応していく。担当課で調整が必要な案件については、課内で検討のうえ回答を出している。

できないものもあるが、必要なものについては迅速に対応するための予算も確保されている。移動市役所はセレモニー的なものではなく、実際様々な意見も反映されており、皆様からもご参加いただきたい。

▶ 長谷部委員

移動市役所として住民を集めて意見を交わしても、市民は自分たちの意見が先に歩んでいける体制となっているか疑問を感じている。政策推進課はどうとらえているか。

▶ 白崎政策推進課長

移動市役所は、市長が地域を訪問して市政やまちづくりについて直接説明しながら、市民とざっくばらんに意見交換しようということで、平成20年度から開催している。要望をいただく場は別に設けているが、以前要望したものが進んでいない場合などは、すべての部長が出席して

いるので個別に相談を受けそこで回答し、持ち帰らなければならない案件についてもできるだけ早く答を返すようにしている。

個別の要望活動ではなく、市政やまちづくりについて全体的な意見交換を行う場が移動市役所であるが、皆様の声も聴きながらその中身について検討していきたい。7月5日の移動市役所には、多くの皆様からご参加いただきたい。

▶長谷部委員

たびたびあることではないため、市民はこうした機会を重要だととらえる。移動市役所とはどういうものか、市民から理解を得られるよう、事前の周知を図るべき。

▶白崎政策推進課長

市広報の記事をより充実させるなど、移動市役所について市民から理解を得るための努力をしていきたい。

▶和根崎委員

昨年の移動市役所で出された要望だが、選挙の投票所について、郡鏡地区の住民は平田総合支所で投票するために飛鳥バイパスを横断しなければならず、前の状態に戻してもらいたいとのことであったが、どういう結果になったか聞きたい。

▶石川地域振興課長

選挙管理委員会で協議し、結果を質問された方に伝えている。投票所の統合については住民からも検討に加わってもらい、飛鳥バイパスによる交通環境の変化についても話し合いながら決めたことであり、すぐ元に戻すということにはならない旨、質問された方宅を訪問して回答している。

▶白崎政策推進課長

今年度より、市民の意見と政策を一致させるべく、移動市役所を政策推進課が受け持つこととなった。市民の意見に応えられるよう、引き続き勉強させていただきたい。

▶富樫美雪委員

参考までに、昨年度の平田での移動市役所への参加者はどのくらいか。

▶石川地域振興課長

資料を持参しておらず正確な数字ではないが、30名以上であったと記憶している。

▶富樫会長

多く市民から参加してもらえよう、移動市役所のねらいを明確に示す努力をしてもらいたい。

③地域情報通信基盤整備事業について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

(6) 協議

①過疎地域自立促進市町村計画（過疎計画）について

▶山口政策推進主査（資料に沿って説明）

②平田地域における過疎計画策定に向けた進め方について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

③地域課題について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶佐藤力委員

仁助新田地区の振興や六ヶ村排水対策など、合併前からの課題について、今回策定する過疎計画の中で進めてもらいたい。

▶長谷部委員

過疎債について、旧3町の住民は財政的な仕組みもある程度理解していると思うが、旧酒田市の住民からも理解してもらうための取り組みを行ってもらいたい。事業実施に際し、酒田市でも事業費の30パーセントを負担するということの理解を得られないと、計画を進めるうえでのブレーキとなってしまう。

コミュニティ振興会から意見を聴く会について、最初の段階は地域に対する説明にとどめ、地域で議論する時間を与えてもらいたい。地域で役職を持つ人から意見を聞くだけではなく、住民を巻き込み、地域にとってどうしても必要な課題を取り上げていかないと、後から変更するための作業に時間をとられてしまう。

▶藤原委員

過疎化や中山間における課題について、何が要因で、どんな現状で、どういう危機的状況にあるのか、議論が散漫になることのないよう、私たち委員の共通理解を深めていくことから始まるのではないかと。そのことによって、進むべき方向、具体的な施策や行政手段などが見えてくるのではないかと考えている。

▶佐藤達也委員

時間がない中での過疎計画の策定ということだが、長谷部委員から発言があったように、地域や団体の役員だけではなく、幅広い層から意見を聴いてもらいたい。過疎債を活用して実施する事業について、酒田市全体で事業費の上限というのはあるのか。

▶山口政策推進主査

ハード事業については国で定めた地方債の計画があり、それに基づき都道府県に配分され、そこからまた市町村に配分される。ソフト事業に関しては、市町村の財政状況等から算出する式が決まっている。

▶後藤委員

私は日々過疎の中で生活しているわけだが、二人暮らしのおじいさんとおばあさんが軽自動車に乗り、時速40キロとか50キロとかで運転しながら買い物に行くのを見ている。まだ買い物に行けるうちはいいのだが、車の運転ができなくなった時のことを考えると、デマンドタクシーなど生活面で大変な人に対するの支援が必要となってくる。コミュニティ振興会のみならず、幅広い層からできるだけ多くの意見を聴くことが必要ではないか。

地域ビジョンというもの考えたとき、「過疎だから。中山間だから」と言うのではなく、中山間であればこそ人を呼びこめるような、地域の良さを掘り起こすようなシステムづくりに向けた事業もいいのではないか。田園調布学園のファームステーションについても、平田地域だけでの実施だと「負担が大きい」という声もあるので、幅広く全市に広げるといふ考え方もあるのではないか。

▶菅原副会長

過疎計画を策定するに当たり、女性の声も十分に取り入れていただきたい。

▶石川地域振興課長

幅広い層から、より多くの意見を聴くべきとのご意見について、集まっていただくコミュニティ振興会の役員には、各種団体で代表を務める方も多く、コミュニティ振興会という枠を超えたご意見をうかがうことができると考えている。

また、コミュニティ振興会内部で検討の場を持つということであれば、そこでの意見を上げてもらえれば過疎計画に盛り込むよう努力する。さらには、地域ビジョンの策定に向けても地域や各種団体の皆様から意見をうかがう場面も出てくるので、ご協力をお願いしたい。

▶阿部委員

過疎を食い止めることはなかなか難しい。地域の資源や財産を生かし、観光などで平田地域に人の流れを作ることを考えていくべき。私の住む地域にある旧阿部家の活用についても、時代に合った、使い勝手の良いやり方にできないか地域振興課へ相談している。旧阿部家の活用拡大に向け、利用する側の意見も取り入れてもらいたい。

▶加藤委員

お年寄りは確実に増えている。砂越緑町ですら30年になり、買い物
の心配や一人暮らしで不安を抱えているといった話が出ている。私たち
民生委員の間でも、NPOの形をとるなど、有償ボランティアを立ち上
げられないかと考えている。過疎計画を策定していく中でも検討して
もらいたい。

▶奥山委員

自分が就農した昭和37年当時、米1俵の価格は土木作業員10日分
の日当に相当していた。しかし今では1.5日分ということで、米の価
値は7分の1まで下がってしまった。過疎の問題を語るうえで、こうし
たことも考えていかなければならないのではないかと。

▶阿曾委員

担い手として、退職後は地域を引っ張っていってもらいたいと期待し
ている公務員などが、定年になると中山間部から転出していってしまう。
コミュニティ振興会の役員にも、こうした有識者といわれる人たちは少
ない。地域貢献に対する意識を、もっと持ってもらうことが必要である。

過疎計画に盛り込む事業について、小規模集落だと林道の維持や除草
といった共同作業が多く、住民一人当たりの負担が大きくなっている。
林道を舗装するなど、住民の負担を小さくするような予算の使い方も考
えてもらいたい。

▶小林委員

平田地域を見たとき、過疎化や高齢化が進んでいることは日々感じて
いる。ただ、それほど逼迫している現状ではないととらえている。今こ
の時期に過疎計画を作って実施することで、5年先、10年先に対応す
ることが可能となり、ちょうど良い機会だと思っている。過疎債をうまく
活用し、みんなが不便なく生活していけるようにしていきたい。

また地域ビジョンの柱立てとして、「各地域における現状・課題の分
析」とあるが、「現状」だけではなく、「先を見通した」という視点を
追加することについて要望する。

▶和根崎勘一委員

過疎計画の策定については、自治会やコミュニティ振興会に持ち帰っ
て検討したい。私も自治会長になって2年目に入ったが、各自治会長に
とって、地区の人口や世帯数が減ることが一番の悩みだと思う。幸い檜
橋地区では、ここ2、3年、戸数が増えている。檜橋に住みたい、家を
建てたいという人のため、現在自治会費や役割の部分での負担軽減につ
いて話し合っているところである。こうした取り組みが人口減少に対し

て効果があるのであれば、他の自治会にも広がっていけばと考えている。

またアイアイひらたについて、「悠々の杜自然歴史公園」として前の過疎計画にも載っているが、名前のみで施設の整備は進んでいない。年々入場者が減少する中、計画が自然消滅とならないか心配している。整備を進めてもらい、来てくれる人を増やしたいし、それには地区としても協力したいと考えている。

▶長谷部委員

公民館制度からコミュニティ振興会へと大きく方向転換したわけだが、コミュニティが持つ「互いに話し合う」「付き合いを密にする」という意味や基本について、住民の理解を深めるための行政としてのフォローが必要である。

今回光ファイバー網が整備されるが、中山間についてマイナスととらえるのではなく、豊かな自然環境などについて情報を発信し、地域に人を呼び込んだり空き家を活用したりといった、地域の活性化策を考えてもらいたい。

▶佐藤力委員

仁助新田を中心とする交流人口の拡大に向けた、十二滝など豊かな自然、アイアイひらた、旧阿部家といった地域の財産を組み合わせた中・長期計画をどのように組み立て、地域の活性化を図っていくかが、我々委員に課せられた課題である。

▶富樫会長

総合支所の職員が明日からコミュニティ振興会へ出向くわけだが、住民に説明する職員に対しての、過疎計画についての研修は行っているか。

▶齋藤支所長

コミュニティ振興会を訪問する職員全員による会議を開催し、訪問の趣旨やねらい、説明内容、心構えについて、意識や情報の共有を図っている。また訪問の際、各課の立場での説明もできるよう、4名から5名で構成される班の中に、総合支所の3課から職員一人は入っている。我々職員も勉強しながら、引き続き意見交換をさせていただきたい。

▶富樫会長

事業の実施に向けては市の財政状況もあると思うが、見通しはどうか。

▶白崎政策推進課長

現在の過疎計画は旧3町で策定したものであり、新市建設計画に盛り込まれている事業もあるが、こうした事業については合併特例債を含め、有利な財源を活用しながら実施する方向である。過疎債はかなり有利な

財源であり、新市建設計画の中で進んでいない事業については新たな過疎企画に盛り込み、できるだけ事業化に向けて進んでいければと思っている。

新市建設計画に載っているもの以外の新たなハード事業については、必要なものについては実施に向け、皆さんから意見を聴いて検討する。今回から新たに対象となるソフト事業については、市全体で1億円以上が配分される見込みである。実施する事業については地域の特色を前面に出し、地域で暮らしやすくするための、他から人を呼び込むための事業などについてご検討いただきたい。ソフト事業は、市でやるもの、地域でやるもの、地域と他団体等でやるものなどがあると思うが、皆様が主体となって実施するものについては十分応援していきたい。

▶富樫会長

委員の皆様への希望となるが、今回策定する過疎計画を实のあるものにするため、市民の方々に対し、またコミュニティ振興会や所属する団体における、過疎計画についての積極的な情報発信について、よろしくお願いしたい。

これをもちまして、第2回平田地域協議会を閉会いたします。